学校番号	102

令和５年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅲ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高校生の美術３（日本文教出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

具体的なものを見て描くことからはじめ、絵画、立体、デザインの各分野で実制作することでスキルや美的センスを養い、自分を表現することを学びます。
過去や現在の古今東西の美術に触れることでより広い範囲で美的な体験を経験し、自分の感性を深めましょう。
また、他者の作品を鑑賞、批評することで、より深く、美術作品のよさを感じ取れるようになりましょう。

２　学習の到達目標

美術Ⅰ、Ⅱをもとに、より幅広い創造活動を通じて美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	制作の様子 アイデアスケッチ 鑑賞活動やグループワークの様子	アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	デッサンから水彩へ	【絵画】 ◆静物モチーフを鉛筆で表現する。 ◆立体の捕らえ方、紙への表現の方法を学ぶ。 ◆水彩絵具で静物や風景を,どう「表現」するか、ものの見方、感じ方を考える。	○	○	○	○	a: 主題の追求 b: モチーフを表現することを理解したか。 c: 対象物から何を引き出したか d: 自発的・自主的な取り組みと持続性	◆作品 ◆学習態度 ◆その他(提出物等)
一学期	旭高校のパンフレットイラスト デザイン	【デザイン】 ◆「伝達」としてのデザイン表現の方法、スキルを学ぶ。 ◆テーマの設定、画面構成、配色、彩色等を実際にイラストボードに制作しながら学ぶ。 ◆どうすれば他者に伝わりやすいかについて理解する。 ◆絵具、筆、マスキングテープなどの使用を学ぶ。	○	○	○	○	a: 主題の追求 b: テーマを表現することを理解したか。 c: 道具を効果的に使用することができたか d: 自発的・自主的な取り組みと持続性	◆作品 ◆学習態度 ◆その他(提出物等)
二学期	ゴムはんで手ぬぐいをつくる 版画	【版画】 ◆凸版画の手法でゴム印を繰り返しスタンプすることで手ぬぐいをデザインする。 ◆具体的なものを単純化して表現する。 ◆効果的な配色、リフレインによるデザインについて考察する。 ◆テーマ、構成、配色について工夫をこらし、より魅力的な手ぬぐいづくりを理解しする。	○	○	○	○	a: 主題の追求 b: モチーフを表現することを理解したか。 c: 対象物から何を引き出したか d: 自発的・自主的な取り組みと持続性	◆作品 ◆学習態度 ◆その他(提出物等)

二学期	メモスタンドをプロデュースする　立体造形	【立体】 ◆メモスタンド(既製品)に石粉粘土で作ったオブジェを組み合わせ、魅力ある製品にする ◆メモスタンドに何か「リアル」な立体を組み合わせることで驚きを生む表現を考える。 ◆何かを立体で「リアル」に表現するにはどうすればいいかを実際の制作を通じて学ぶ。、 ◆彩色に工夫をこらし、リアル感を高める。	○	○	○	○	a: 主題の追求 b: テーマを表現することを理解したか。 c: モチーフを表現することができたか d: 自発的・自主的な取り組み、自分なりの工夫をこらせたか	◆作品 ◆学習態度 ◆その他(提出物等
三学期	鑑賞	◆自分、及び他者の作品を鑑賞し、その良いところ、気づいた点を書く。 ◆自分の作品について書かれたものを読むことで作品の見方について考える。	○			○	a a:関心を持った鑑賞 b: c: d: 自発的・自主的な取り組みと持続性	◆学習態度 ◆その他(提出物等

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。